

まちの話題

▶「まだんげき？」と意味も分からぬまま、空の穏やかな晴れた日に一家で新浜に出かけた。真っ平らな原っぱに着くと、すでにキガンさんがマダン劇について話している。すぐ横の「共同キッチン」でも煮炊き用ストーブの煙突から煙が立ち上っていた。2か所で何かシンクロしながら始まることだった▶内容については割愛するが、僕が参加して目の当たりにしたこの劇の魅力は「参加者の意識の変容」。受けた印象を挙げると、①ほとんど演劇の未経験者で構成される②配役とセリフ・振付けが即興的に決まる③手ぶらの普段着に1枚のお面、1枚の布などでシンプルに装う…等。素人の自分に役が務まるの？という不安がよぎりつつも、キガンさんの指導でテンポ良く進行し、いつ配役が降ってくるか分からない緊張感もあった。演者かもしれないし、同時に観客でもあり、舞台を見守った。自然と、今演じている人のセリフや動作に注意深くなり、その場で学習<模倣>が始まっていた。周りも見てみると、2度目はこなれてきて、より役になりきっていった。いつの間にか全体が一つにまとまって、見事安倍トラを追い出すことが出来たのだ▶劇を作り上げていく過程そのものが、個性を持ち寄って築き上げる社会のあるべき姿と重なって見えた。劇に加わることは、部分的に政治参加と似た側面があるのかもしれない。政治に正面から取りつき難くてもこれなら参加しやすくなる人たちが増えるかもしれない▶終わってみれば、始め何も無かった原っぱの草の上に生き生きとした舞台の輪郭と劇の余韻が残っていた。さあ次はみなさんが参加しましょう！（たまのたいへい）



みんなで作ろう！
野外実験劇場 参加型芝居
「ステップを踏もう！」
「月のはじまり」
「二日後マルシエ」

2016 sat
9

プレイベント vol.2
「やるうーやるうーやるうー」 ステップ！
舞臺芸術文化会館さくらシンボル広場
https://www.facebook.com/kenminshuukaishiga/

あまいろだより(天色便り)
あまいろ探偵団、走る！手づくり市民メディア
第26号 特集:三十八男、ギターで語る。
発行日/2016年3月15日
編集/あまいろ探偵団
(綾牧生・岸田知之・北岡七夏・
きむきがん・中野和子・藤井朋子)
発行/特定非営利活動法人碧いびわ湖
~大切なことを他人任せにしない。
自分たちで力をあわせてつくる~
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦3番地
TEL 0748-46-4551 FAX 0748-46-4550
info@aobiwako.org http://aobiwako.shiga-saku.net/

あまいろだより
ことばにする、
耳をかたむける
AMAIRO CHANNEL
あまいろ
チャンネル
http://www.aobiwako.org/amairo-channel/

表紙タイトル/岸田知之
びわ湖の森を元気にするkikitoペーパーを使用
しています(びわ湖の森の製材材活用)

あまいろだより



さんばち
三十八男、
ギターで語る。
天色便り
あまいろ探偵団、走る！
手づくり市民メディア
第26号 2016.3.15

暮らしのコラム

はじめましての方もそうでない方もみなさまお久しぶりで〜す!!ちやたと申します☆今回はステキなご縁で、あまいろの暮らしコラムに掲載させていただけることとなりました。関わってくださってるみなさま本当にありがとうございます^^

僕は、普段野洲市で、絵・カフェ・ヨガ・マルシェ・お米づくりなどを通して、一人でも多くの人の笑顔につながるような暮らしをさせていただいています。

もともと大学生の頃は、好きなことも全然なく、人と比べては落ち込んだり、焦ったり、すごくネガティブな毎日でした。

心の中では、今の世の中に違和感があり、「普通に就職する」というルールにのっかれない自分がいました。けど、好きなことがない。やりたいことがない。でも、なぜかルールにはのれない。

そんな気持ちの中、19歳の頃、高橋歩さんの「アドベンチャーライフ」という本に出会いました。好きなことで生きている人に憧れを抱き、自分もこんな人生がいい!!と直感。まずは興味あることをやってみよう、いろいろやってみました。

それから、3年が経ち、気付いたことがありました。それは、すぐ飽きてしまい、続かな

いろいろな暮らしがあって、みんないい
ちやた

いこと。そんな自分に不安を感じる日々。そのとき、ふと心の中で「何をするかより、なんのためにそれをやるかが大切。」という言葉が浮かんできました。「何のために生きていきたい?」って自問自答しながら、その質問を「自分にとって、どんなときに一番幸せを感じる?」と聴いた時、「人の喜ぶ笑顔が見れたとき」という答えが出てきました。

1年後、そのころ興味があった絵を友達にプレゼントしたとき、笑顔で喜んでもらったことに嬉しさが体中から震え出し、「これだ!!!」という確信をし、仕事を辞め、絵で笑顔を集めるという道を選びました。

最初は、路上からスタートしました。その中でステキな出逢いや大切な学びを通して、今という自分がいます。今ではもっと素直に、自分の好きな手段で、笑顔につながるお仕事もさせていただいています^^

暮らし。まさに僕にとって、生きる柱な気がします。みんなちがって、みんないいように、暮らしもいろんな暮らしがあって、みんないい。

自分なりの暮らしをこれからも大切に、味わっていきたくです。

ちやた...絵とカフェ、YOGAとマルシェを通して、たくさん人の笑顔を集めていくスマイルペインター。ただいま古本屋さんも計画中!

蜂の牙

ファーストフード店にはいれない!

ありませんか? 生活の中の、これだけは... ということだわ。小さいことだけど、私一人やったら仕方ないかもしれないけれど、でもやっぱりこれだけはゆずれない... というこだわり。小さいけれど、痛く突き刺す。「蜂の牙」のようなこだわりを紹介しませう。

あまいろだよりを音読している方はファーストフード店に行くと「おれい!」と叫ぶ人が、今では若者はファーストフード店を利用する人が非常に多いです。友達と遊んだりしたとき、勉強するときに、学校行事の準備に小遣いが足りなくなると、...

なので友達に「これはちゃんとしたお土産、マクドナルドのハンバーガー、お土産もこのくらいあります。それ以外には「どっさり美味しい」のハンバーガーも入ります。これは本当にオススメです!」

はたさこはる

あなたも私もつながろう
今、びわ湖から辺野古へ
碧いHand in Hand プロジェクト

沖縄・辺野古で繰り広げられている米軍基地建設を巡る市民と権力側との攻防戦が今、全国世界へと明るみになりその露骨な権力の横暴に、地球規模で反対運動が広がっている。私達はそこから学び、暮らしをデザインし、想う平和を立ち上げることができるんじゃないだろうか。辺野古の現場から繋がりと私達の政治を考える。

まいど辺野古滞在記 (2015,12/29-2016,1/20) 劇団石(トル) きむきがん

キャンプシュワブゲート前では、昨年11月末から、反対運動の世界的な高まりに焦りを見せた日本政府が沖縄機動隊に加え警視庁本部からもさらに機動隊を投入し、座り込む市民を鎮圧していた。今回の滞在期間中も、基地建設工事の資材を積んだトラックやミキサー車の搬入が頻繁で、そのたびに機動隊による激しい排除を受けた。「法」というのは「皆が気持ちよく暮らすための約束」であるはずなのに、ここでは「国家の管理・抑圧」のためにだけ適用されて、権力の暴力は正当化されていた。機動隊は「制服」をつけ「個人」をしまい、命令に従いこちらの声には一切耳を傾けない。

しかしここに集う人達は諦めていなかった。「1分1秒でもとめないと。私たちの意地を見せないと」と震えながらトラックの前に立ち、勇気を出して抗議し、歌い踊りながら励ましあい、雨でも寒くても座り込むことをやめない。「危ないですよ」と強引に掴みかかってくるシワひとつない機動隊に「危ないのは何か!なんでこうしているか考える!」と叱る人間深い声は何よりも説得力と愛があった。

それは機動隊にだけではなく基地で働く沖縄の人にも、戦争資材を積むトラックの運転手にも向けられ「その仕事殺人につながるんだぞ」「誇りはないのか」「あの沖縄戦を忘れたか」「今すぐ帰れ。沖縄は殺人を望んでない」とその生き方を問うていた。この鋭く突き刺さる訴えに相手はどん

な思いで聞かろうか。ほとんどの沖縄の人は基地など望んでいない。占領されてきた長い歴史の中で基地産業に従事せざるをえない背景があり、沖縄に押し付けたまま何も知らない日本市民の無知と無関心がそこにはあった。

本当の敵は誰か。すべてを腐らせるものは何か。私達と機動隊と基地賛成派と安倍。

現場で対立させて笑っているのは誰か。誰が命を重く受け止めているか。

そしてここに来た若者達は、ここから生きる意味を学び、人間のやり方を吸収していた。一時期順番にやって来ていたSEALDsのメンバー達も各現場に戻って自分流のスタイルで訴え始めて久しい。訴えは生きる権利だ。政治は学びと気づきだ。私達もこれまで遠のけてきた「政治」に新しい息を吹き込んで、自分達の暮らしを立て直そう。

権力に屈せず信念をもって抗議することや、制服を脱ぎ好きな服をきて町を歩く大切さ、がむしゃらに心を動かす喜びを、今一度子ども達にしっかり伝えていきたい。

この逆境をチャンスに変えて本当の豊かさを取り戻せるかもしれない。

そのために武器をペンや楽器に変えて、今私たちは学ばなければならない。

きむきがん...しが県民集会の野外劇で脚本、演出を担当。好みのタイプはサントリープレミアムモルツ。



さんぱち



和子



ネギ

三十八男ら、ギターで語る。



牧生



とむやん



ななつ

場所は、あたたかい灯りがこぼれる夜の綾家。そこで、二人の「三十八男」が出会いました。巷では野党共闘の声が大きくなる中なのに、二人はギターでセッションを始めます。さてさてどうなるか・・・三十八男らがギターで語りはじめます。

きがん（きむぎがん・あまいる探偵団以下きがん）／最近の大造さんのお気に入り曲は？
大造（山元大造以下大造）／「ウィーシャルオーバーカム」。

きがん／いいねー！
きがん／これ、日本語の歌詞、（訳詞をした中川五郎さんが）すごく悩んだって聞いた。この、「壁を崩す」というのにめっちゃこだわったって言ってはった。

大造／集会なんかで歌う時には、いいですよ。あとはブルーハーツの『青空』とか。
きがん／おお、歌って〜！
亨（綾亨以下亨）／いやいや、これだけで終わってまいそつやけど（笑）

きがん／じゃあ、お二人の自己紹介を、即興のブルースに乗せてお願いします。

大造／山元大造です。僕も三十八歳、獅子座です。僕は八月十五日という、実にいい日に生まれておりました。実家は東東です。今は妻と二人で山科に住んでいます。もともと湖西線沿いと東海道線沿いの障がい者施設で働いてたんです。十年働いたかな。ま、いろいろあって辞めまして、今は労働組合で働いています。

和子（中野和子・あまいる探偵団以下和子）／どうして労働組合で働こうと思ったの？
大造／障がい者施設で働いてた時に、障がい者自立支援法って法律が入ってきて、そこで運動って大事やなと思ったんです。

労働組合で…

大造／時代は変わってるから一概に比較して測れないけど、厳しくなってると思いますよね。特に雇われて働いている人たちにとって。雇用形態もそうだし、実態もそう。

僕が就職して組合に入った二〇〇〇年頃は、まだ社会全体で大きく問題視されてはなかった

く運動を支えてくれてるっていう面があるんだよね。

大造／労働組合を人がどう見てるか分からないですけど、人と話しをしたり、事務作業をしたり、いつもいつもフワフワってやってるわけじゃないんです。大部分が誰かの相談とかね、施設にいた時とあんまり変わらへんな…と。施設でも「私は本当にしんどかったんだ」という話しを延々としる人の話しを聞くんです。牧生（綾牧生・あまいる探偵団以下牧生）／亨（綾亨）もそういう相談つけるの？

亨／個人的にちよつと聞いたりする。ちよつと仕事で上司とちよつと聞いたりする。ちよつとやるな、みたいな話を聞くんだけけど、別に何をしてあげられるわけじゃない。だいたい話をしっかり聞いてあげると、自分の中で答えが見つかって、こつこつと、みたいになるんだね。

ななつ（北岡七夏あまいる探偵団以下ななつ）／働いていていふこととか、労働者の方々を守るっていつかのこと、どこを大事にしてはりますか？

大造／相談に来る人にとって働くことは生活することですから、仕事が無くなれば生活出来ないうことですよ。それを守ることやろうなと、生活を守るってことですよね。

大造／直結してはいますよ。首になつたけど明日から住むところ無いか。派遣会社なんか住むところをすぐ奪いますから。仕事がなくなつたらイコール住むところも無い。朝からのご飯もこと欠くと。

ななつ／そういう後が無いっていうようなことと隣り合わせ。
大造／ほんととかどうかわかりませんが、そういう電話がかかってくるんですよ。あとは首つるか無いか。そんなんですよ。後が無い。でも大企業で結構良い給料もらってる人だつて一緒ですよ。稼いでる人は稼いでる人で使う予定がありますからね。たちまち生活が困る。

流動化する時代で…

きがん／お二人は組合活動をされる中で、この社会に組合がどういう役割を果たしているか、どういふことで関わっているかと思いませんか？

大造／社会に関わってるつもりなんですけどね。労働組合ですからね。労働者の権利を守ると。僕なんかは直接的に出ていって権利を守ると。首にされそうなる人を、そんなしつたらあかんやろってとどめる場合もあるし、結

果的に残念やけどお金で解決みたいな場面が残念ながら多いですけどね。まあやってくることの積み重ねが、悪くなる方向を押しとどめていけばいいな。僕の組織の中央は、全労連っていうね、連合の一部の人たちもそうだろうけど、今回の一連の動きの基盤（戦争させない・9条壊すな）総掛かり行動実行委員会を支えてきたっていう部分があるわけだから、僕らが払ってる組合費で（笑）。まああの、連日の国会前の取り組みが、いくら行ったか知りませんが、十円か五十円かしらんけど（笑）。何万人もいる組織の話ですからね。

そういう意味では見えないですけど、今回のことに関しては、ちゃんと仕事したなど、全体としては怪しいですよ。外から見える所と前面に立ったのはシルズのメンバーだったりします。場合によってはあそこ国会前いくと、国会議員も、コンスタントに出てきたわけですから、そういう風に、はたからは見えるけど、それいろんな人があってあの場合はできているもの、まあ（労働組合も）その一部になっていたと思うと思います。

和子／でもほんと、「総がかり…」が支えてくれないとならシルズなんか、ほんとのちよつととだつたしね。やっぱり敷き布団と掛け布団だ。大造／滋賀の養庭野演習場での合同演習に對してもね、反対の取り組みなんかをやるわけですけど、そうして社会に発信しています。そうでなかつたら、「養庭野で、わざわざ米軍がやって来て自衛隊と一緒に人殺しの訓練をしてる」なんてことは、多くの人に知らされなままだつただろうし。そういう意味では幅広い取り組みができていと思う。それが社会にとってプラスかどうかは先にならなとわからないですけどね。

きがん／亨ちゃん？
亨／連合がどういふ動きをして、連合といえは民主党の支持母体になつてるから、民主党に対してどういふ働きかけをしてどう考えてんのかね、見えにくい部分はある。

もろろん連合も、働く人の権利を守るための活動をせなあかんという軸でやってると思うんやけど、なかなか我々に伝わってこないなあと感じるところはある。やっぱり僕自身個人的にやってかなあかんと思つてんのは、相談やったり、地域の活動やったり、というところにしつかりと、重点を置くのが一番わかりやすい、しつかりと目の前と横見て活動していくって

うのが一番ええのかなと思つている。というところ。（笑）

音楽と…

きがん／ギターで、一番はじめに覚えた曲は？
大造／「雪山讃歌」。

とむやん（岸田知之・あまいる探偵団以下とむやん）／ぼくは、はじめにやったのが『ブラッパード』と『ティアーズインヘブン』。
亨／尾崎豊の『十五の夜』。
きがん／今の若い子たちのデモとかで使うラップとか、自分らでああいう風にデモの形をつくり出していったっていうのはすごいなって思つて、リリーススタイルとかいって、思いついたことをリズムに載せて喋るけど、基本メロディーがないから誰でものれるっていうところで、爆発的に広がったな、と思う。

亨／もともとヒップホップっていうのは、黒人文化から生まれたものやんか。言つたら自分の身の丈の思いついたり、何かに対する反抗心だつたりを言葉に載せるものだつたけれども、日本に入つて来た時点で少し違うものになつて。どうも、親やまわりの人に感謝の気持ちを伝えるような歌ばかりになつちやってね。最近では本来の肉体的取り戻してしつかりとパワーを持つスタイルになつて来てるな、と。デモとかでいい言葉なんかだとすく親和性は高いんやろなと思う。

きがん／大造さんはどんなふうに見てるの？
大造／ぼくがそれまでやってた障がい者運動はあんまり盛り上がりあへんかつたけど、そうかこつという課題やつたらみんな立ち上がるんだつて思つてね。

亨／やり方がね、圧倒的にスタイリッシュだと思つよ。デザイン感覚に優れてるなつて思う。大造／労働組合なんか、組織を作る、形を作る、お金を集める、やしね。

ネギ／ぼくはあんまり政治的な活動に関わりなかつたけれど、逆に今は、すつと関わってきた表現活動を通じて政治的なアクションをしてる感じ…。
きがん／最後に漠然とした直球で、「自分にとつて音楽とは？」
亨／えー（笑） そういう話やつたっけ？音楽とは？（笑）

大造／直球の返事を漠然としつて思つてますけど、あるときソウルフラワーユニオンの曲をやってたんですよ。みんなだね。仕事もしながら音楽もしながらこつこつというんな社会情勢

があつて、原発の集会を手伝うようになったときに、ソウルフラワーユニオン呼びましようつて言った人がいてね。やるやるつて！ 来てくれることになつたんですけど、自分が昔やつたこととつながつたっていうか、そういうところが面白いなと思つてね。

仕事やつて音楽やつてちよつといい感じがしますけど、欲張れば働かず音楽やつて本読んで酒飲んでだけで暮らせればね一番いいんですけどね。たまにどつか旅行いってね。そんな訳にはいかへんけど（笑）僕だつてそんな別には使命感燃えて労働組合の仕事してるんじやなくつて、僕だつて生活のためにやつてる訳であつてです。

亨／ギター始めて、何年か経つてバンドをやりたい、大きな音を出さつてめっちゃめっちゃ楽しんでやんけつて思つて、表現とか言つのはよく分からんけど、音を出したり音につつまれてるのつてすく楽しいなつてのが根底にあつて、僕の中では音楽以上に楽しいものはないと思つてる。

最初は見るのが楽しくつてあこがれの世界にどつぶりつたつていうのが良かったんやけども、自分がやるようになると自分で出した音のなかにふわ〜とひたつてる感じがすく気持ちよくなる瞬間があつて、なかなかいい瞬間だ。そのためにやつてるかたつていう感じ。だから僕個人的には、自分の中の想いを表現したいとかあんまりなつて純粋に音として楽しみたい、自分の出した音、聞く音を楽しみたいっていうのがある。そういうスタンスで楽しんでます。

きがん／とむやん？
とむやん／音楽やつてるときは純粋に楽しいじゃない。最初はカッコイイっていうのと憧れではじめたけど、だれどやるようになってくせになつていうか、今みたいに合わせられたときのなんつていうの、もうさー、楽しい！
亨／人とやるのはものすく楽しい！
ネギ／県民集会も、こつこつ音のある場、セッションし合う場つていうのが、すく大切なことやなと思つて。一人一人の気持が、普段のあわただしい暮らしの中で、仕事や家事に追われて、「ぎゅー」となつてしまつて、どつかでいったん緩まないとモードチェンジしないつていうか。こわばつた状態から、音楽とか、ダンスとか、言葉を介したコミュニケーションじゃないところで、いったんゆるまないと変わつていきにくいよな、と思つて。『びっくりちやっかり』40万人しが県民集会が、そういう場になつたらいいですよ。